

## 令和7年度上牧町総合計画等外部検証委員会（第1回）会議録

【日 時】令和7年10月23日（木）9時30分～12時00分

【出席者】（50音順）

（委員：10名）

植村委員、氏原委員、大西委員、鶴谷委員、中林委員、中山委員、野田委員、服部委員、東谷委員、三宅委員

（事務局：総務部企画財政課）

中川部長、中本課長、土井課長補佐、高野係長、高見主事

【欠席者】3名（尾崎委員、呉羽委員、辻本委員）

【傍聴人】0名

【議事概要】

### 1 開会

・10名の委員が出席であるため、会が成立していることの説明

### 2 検証委員会の進め方について

事務局：＜検証委員会の進め方について説明＞

### 3 第2期上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証について

#### ○企画財政課

#### 【2-1-2. UR住宅を核とした地域の魅力向上と移住・定住促進】

担当課：＜「①UR都市機構等関係者との協議」について説明＞

副委員長：若者世代からのニーズはあるのか。

担当課：ニーズを増やすために、他のURで行っているDIYやリノベーションを取り入れてほしいという話もしてみたが、現状復旧の問題もあり進めるのは厳しく、具体的な話は出来ていない状況である。また、DIY作業を個人ではなく町内事業者に作業してもらうことは出来ないのかという事に対しては、特定事業者と繋がるのは厳しいという回答があった。

東谷委員：前回の検証委員会の時に、URにDIYやリノベーション等をしてもらうのではなく、入居者自身で出来るように規制等を緩和してもらえよう働きかけてほしいと言ったが、引き続きお願いしたい。また、エリアを活性化させるために喫茶店や雑貨店など人が集まりやすい環境を誘致してはどうかと思う。

服部委員：近隣大学の学生の下宿として、何か優遇施策をしてはどうか。

担当課：いずれの意見についても、次回協議の際に提案していこうと思う。

三宅委員：KPIの数値が年々減少しているが、この指標で問題ないか。

担当課：KPIについては後期基本計画策定当時、定量化できるものとして設定したが、次回の策定時にはこのようなものではなく成果として見えやすいものを設定したいと考える。

中林委員：自分が勤める会社内の事例としては、愛知県内の集合住宅地で対外的な発信力を持つ

た住民を中心にその地域に所在する店舗が協力し合い、集合住宅や地域の魅力を伝えようというイベントを行っている。もし、そのような検討している場合はぜひ協力したい。

### 【2-2-2. 関係人口・交流人口の創出】

**担当課** : <「①イベント等におけるふるさと回帰・移住促進 PR 活動の実施」について説明>

**東谷委員** : イベントの目的としては、訪れた人に対して上牧町の良さを知ってもらおうという事を柱に据えてやっていると思う。施策の方針である関係人口・交流人口の創出や移住促進の PR 活動というものをやっていくのであれば、町外の人にアピールしなければならないと思うが、町外の人々がどれくらい来ているのかアンケート等をやってみてはどうか。また、王寺駅の南口にある陸橋に北葛城郡の広告があるが、王寺駅だけではなくもっと規模の大きな駅に掲出してはどうか。イベントについても、もっと町外で開催するイベントに積極的に参加してほしい。

**担当課** : 令和6年度からペガサスフェスタ内でアンケート調査を行っており、町外の割合は50%だった。要因としては、事業者の協力を得て告知や駐車場の設置を行っているので、様々な情報が広く伝わり町外のかたが多数来てくださっていると考えている。令和7年度においてもアンケートは実施する予定である。

ポスター等については、平成27年度から『すむ・奈良・ほっかつ推進協議会』という協議会を北葛城郡4町で立ち上げ、5年ほど王寺駅や大阪での広告掲出、大阪でイベント等を行い、一定程度その事業をきっかけに転入はあったが、費用対効果的には薄かったという結論に至っている。現在、すむ・奈良・ほっかつ推進協議会については、移住促進ではなく北葛城郡4町の魅力をアピールしていくという方向にシフトしており、先ほど説明にあった御墳印帖プロジェクトもその一つである。

町外で開催するイベントについては、すむ・奈良・ほっかつ推進協議会の繋がり等を通じて出展しており、令和7年度については奈良公園バスターミナルに出展した。

**中林委員** : イベントの開催時期について、10月や3月等の気候のいい時期はイベントが集中しているが、他の時期（閑散期）にイベントを行う予定はないのか。

**担当課** : ペガサスフェスタについては20年以上続いており、11月3日に開催するということが定着してきていると考えられるため変更は難しい。上牧町は、イベントの数が少ないという認識を持っているので、新たに地域イベントを企画する際には、時期等も勘案しながら検討していく。

**担当課** : <「②大学や企業との連携によるブランディングの推進」について説明>

**副委員長** : ホームページのアクセス数が下がっているが、どのような要因が考えられるか。

**担当課** : コロナウイルスが流行した時期に、一時的にアクセス数が増加したものが落ち着いてきたと考えている。

**担当課** : <「③移住支援金事業」について説明>

**野田委員** : 移住支援金事業については東京圏からの移住促進を促すものだが、広報活動について

は広報誌掲載としか記載がない。東京圏対象であれば、ホームページや SNS など対外的な広報を行うべきではないか。

担当課 : ホームページには掲載しているが、大々的な広報は県に任せている。広報誌に掲載している理由としては、町民のかたから家族や知り合いに周知していただけたらと考えている。

野田委員 : 県が大々的に広報をしているという認識でよいか。

担当課 : 内閣府と県が合同で取り組み、その関係に町も協力しているという立場なので、内閣府や県が広報しているという認識で問題ない。

担当課 : <「④SNS を活用した情報発信と企画の実施」について説明>  
特になし

委員長 : これらの項目は『関係人口・交流人口』の創出とあるが、個々に KPI が設定されており、全体的に目標が達成されたのかを確認するのが分かりにくい。次回策定時には、関係人口・交流人口をどのように捉えているのか、またどれくらい実際成果が挙がっているのか分かりやすい KPI を導入してほしい。

#### 【3-2-1. 地域活動の支援・促進】

担当課 : <「①町内の優れた技術・能力を有する人材の発掘及び活動の促進」について説明>

委員長 : 登録者数に対して活用人数が少ないように思うが、ニーズはあるのか。

担当課 : 現在は、資格や知識・経験・技能等を持っているかたに登録してもらい名簿を作成し、その名簿を各課の審議会や委員会の人選の際に各課に閲覧・活用してもらっている。だが、担当課が開催する予定の会議内容と人材の登録内容がなかなか一致しないのが現状である。そのため、今後は町事業に関心や熱意を持っている人に登録してもらい、その中から選べるようにしていきたいと考えている。

担当課 : <「②地域活動団体の設立及び活動支援」について説明>  
特になし

担当課 : <「③上牧町協働のまちづくり公募型補助金事業の活用推進」について説明>

副委員長 : KPI が減少傾向にあるが、どのような原因があると考えているか。

担当課 : これといった原因は特定できない。要綱改正を行い要件緩和を行ったが、引き続き使いやすい補助金となるようにしていきたい。

#### 【4-1-1. ハローワークや町内事業者と連携した就職支援】

担当課 : <「①就職準備セミナーの開催」について説明>

中林委員 : 6 名の参加者とあるが、どれくらいのかたが就業されたのか。

担当課 : 6 名の参加者のその後の就業状況等については不明です。

**担当課** : <「②町内事業者とのマッチング支援」について説明>

中林委員 : マッチング支援とあるが、どれくらいの参加企業を想定しているのか。また、町内事業者がどれだけ求人を募集しているのか把握しているのか。

担当課 : 元々はラスパ西大和内にあった株式会社ママスクエアとのマッチングを念頭に置いていた事業であったため、会社が撤退してしまった現在、今後の取組方針を検討中である。

三宅委員 : セミナーに参加されたかたがセミナー受講だけで終わることがないように、ハローワークで支援を継続して行っている。このセミナー自体は他市町村でも行っているが、どの市町村でも参加者を集めるのに苦慮しているため、引き続き協力して行っていきたい。町内事業者とのマッチング支援についても、協力してできればと思っている。

中山委員 : 2つの取組内容について、今後日本全体の生産年齢人口が減少していく中で住んでいる場所で働きたいという人が増えていくと考えられるため、事業を行っていくのであれば商工系担当部署に任せるのも一案だと思う。

#### 【4-1-2. 子育てしながら安心して働ける環境の整備】

**担当課** : <「①子育てしながら安心して働ける環境の整備」について説明>

中林委員 : ママスクエアで雇用されていたかたたちのその後の就職先はわかりますか。

担当課 : 辞めたかたも数名いると聞いているが、ほとんどが奈良県内に展開している他2店舗に異動した。

### ○まちづくり推進課

#### 【2-1-1. 空き家活用プロジェクト】

**担当課** : <「①空き家利活用の推進」について説明>

野田委員 : 空き家バンクへの新規相談が9件、現地調査は7件、そのうち登録が1件という記載があるが、これは空き家があっても空き家バンクに掲載することができるレベルの物件がないということか。

担当課 : 相談に来られた空き家のうち、ほとんどが不動産流通システムに掲載することができた空き家であったため、そこに掲載できなかったものについて受け皿となって1件掲載を行った。

委員長 : 奈良県内では、生駒市や橿原市などが先進自治体となって空き家バンクの活用について進めているので、そういった事例も参考にしていってほしい。

東谷委員 : 空き家バンクに登録している物件を購入し、リフォームとなった場合に補助金等はあるのか。

担当課 : 上牧町では南都銀行と住友不動産と協定を結んでいるため、南都銀行でローンを申し込んでもらうと通常よりも安い金利で借りてもらうことができる。

#### 【2-2-1. 公共交通の利便性向上】

**担当課** : <「①上牧町地域公共交通会議の開催」について説明>

副委員長 : 会議を開催するとなっているが、状況は進んでいるのか。

担当課 : 令和6年度時点での検証委員会では、令和8年度以降に取り組むと回答していたが、現在前倒しで進めており、令和7年度下半期に住民に対して地域公共交通のニーズ調査を行う予定である。協議会の開催についても、同様に令和7年度中に一度開催予定である。

東谷委員 : 近隣自治体では特区として承認を受け、AI オンデマンド交通の設置等を行っている所もある。上牧町は、国道や鉄道がないということをもっとしっかり上牧町の最優先課題ということを自覚して、事業を進めてほしい。

服部委員 : オンデマンド交通を導入すれば、現在走っている奈良交通が撤退する可能性が出てくると思うが、その辺りはどうか。

担当課 : 奈良県が主催する地域公共交通の会議の奈良交通からの報告では、補助対象路線として上牧町内に走る路線は該当していない。だが、地域公共交通の要として両立するよう進めていきたい。

#### 【2-2-2. 関係人口・交流人口の創出】

担当課 : <「①観光プログラムの企画・周知・運営」について説明>  
特になし

#### 【3-1-2. 地域資源の整備】

担当課 : <「①かんまき笹ゆり回廊を活用したにぎわい創出事業」について説明>

副委員長 : KPI が100%となっているが、事業年度が残っている中で何か新規事業は考えていないのか。

担当課 : 回廊沿いにポケットパークがあるので、今後はその整備を進めていきたいと考えている。

副委員長 : 住民のためになるため、ぜひ進めてほしい。

野田委員 : 回廊の整備前と整備後で訪問人数にどのくらいの変化があったか知りたい。

担当課 : まだ調査ができていないため、今後報告できるようにしたい。

#### 【4-2-1. 地域産業の活性化と担い手の育成】

担当課 : <「①就農支援（担い手育成）と農産物の販路確保支援」について説明>

副委員長 : 新規就農者数とは、上牧町で農業を始めた人という認識で問題ないか。

担当課 : 問題ない。

委員長 : 町内の学校給食や高齢者施設など、必ず需要が見込めるところに販路を確保していくのも一つの手だと思う。

担当課 : <「②地域資源を活用した商品開発と販路確保支援」について説明>

中林委員 : 販路が朝市会だけでは就農者に対してうま味がないと思うが、近隣の大型スーパー等に販路を確保する取組等を行政として行ったことはあるか。

担当課 : 行政でそういったことはないが、現在ラスパ西大和に出店している事業者が町に対して営業を行ってきたことはある。また、そのような情報は朝市会にも共有している。

中林委員：町内に黒カレーを提供している店舗はどれくらいあるのか。また、上牧町の特産品としての認知度はどのくらいなのか。

担当課：認知度等は数字では把握できていないが、イベント等に出展する際には商工会と協力して黒カレーの販売等を行っている。

事務局：提供を行っている店舗は3店舗あり、ふるさと納税の返礼品としても採用している。

#### 4 その他

- ・事務局から次回の開催日時（令和7年11月18日（火）9：30～）と開催スケジュールについて説明。

#### 5 閉会

以上